

## 二回目のメシア的奇跡と議会調査の判定

□前回のハイライトからのつながり

紀元27年春のメシア宣言以来、メシアとしての権威を次々と示し続けた

### 調査団の審問、安息日をめぐって（安息日に対するメシアの権威）

紀元28年春

イエスがメシアとしての権威を示す時期がさらに続く

- (1) 癒やしにおける権威（マタ12:15-21, マコ3:7-12）
- (2) 十二使徒の選任（マコ3:13-19a, ルカ6:12-16）

指導者層は、イエスが口伝律法を破ったと非難し、イエスを殺す計画を立て始めた。

### 山上の垂訓（モーセの律法を解釈するメシアの権威）

メシアの権威を示す一連の出来事の締めくくり。ガリラヤ湖畔の山の上で。

その後の出来事は・・・

- (1) ガリラヤのカペナウムで、異邦人の百人隊長がイエスの権威を認め、彼のしもべが重病から癒やされた（マタ8:5-13, ルカ7:1-10）
- (2) ナインのやもめの一人息子をよみがえらせた。人々は神をあがめ、イエスの話がユダヤ全土と周辺の地域一帯に広まった（ルカ7:11-17）

### 二回目のメシア的奇跡と議会調査の判定

□アウトライン

- I. 二回目のメシア的奇跡
- II. 議会調査の判定
- III. 聖霊を冒瀆する罪
- IV. イエスの宣教活動における変化

## I. 二回目のメシア的奇跡

- A) イエスと弟子たちが、カペナウムの伝道拠点に戻った。イエスの友人たちが、イエスのことを心配して郷里ナザレに連れ戻そうとした。

マルコ 3：20～21 さて、イエスは家に戻られた。すると群衆が再び集まって来たので、イエスと弟子たちは食事をする暇もなかった。これを聞いて、イエスの身内の者たちはイエスを連れ戻しに出かけた。人々が「イエスはおかしくなった」と言っていたからである。

- B) 人々がイエスはおかしくなったと言っていた理由は、議会調査の判定が次のような内容だったからである。

マルコ 3：22 また、エルサレムから下って来た律法学者たちも「彼はベルゼブルにつかれている」とか、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出している」と言っていた。

- C) この判定のもとになった出来事は、口をきけなくする悪霊をイエスが追い出したことであった。かねてより、パリサイ派のラビたちは、口をきけなくする悪霊を追い出すことができれば、その人はメシアであると民衆に教えていた。そのため、イエスはそのメシア的奇跡をして見せたら、群衆は驚き、イエスはメシアなのかと議会調査に関わる指導者たちの判断を見守った。

マタイ 12：22～23 そのとき、悪霊につかれて目が見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが癒されたので、その人はものを言い、目も見えるようになった。群衆はみな驚いて言った。「もしかすると、この人がダビデの子なのではないだろうか。」

- 「そのとき」：直訳は「それから、その後」＝安息日をめぐっての調査団の審問があり、14節でパリサイ派がイエス暗殺の計画を相談し始めた後
- ダビデの子：当時のユダヤ人たちがメシアを指すときに使う呼称。メシアがダビデ王の子孫として生まれるという預言に基づく。

## II. 議会調査の判定

- A) 指導者たちは、口伝律法を否定するようなイエスはメシアであるはずはないという見方を変えることなく、イエスが口をきけなくする悪霊を追い出すことができたのは、悪霊たちの頭（かしら）、すなわちサタンによっていると発表した。

マタイ 12:24 これを聞いたパリサイ人たちは言った。「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしらベルゼブルによることだ。」

➤ ベルゼブル=当時のユダヤ人が悪霊たちの頭（かしら）であるサタンを指すときに使う呼称

- B) この指導者たちの判定に対して、イエスはまず、そのような理由付けは支離滅裂であると指摘した。

マタイ 12:25~26 イエスは彼らの思いを知って言われた。「どんな国でも分裂して争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも分裂して争えば立ち行きません。もし、サタンがサタンを追い出しているのなら、仲間割れしたことになります。それなら、どのようにしてその国は立ち行くのですか。」

- C) 次にイエスは、自分がした奇跡は神の霊、聖霊によって行っているのに、それを悪霊のかしらによると言うのなら、聖霊を冒瀆する罪としてきびしい結果を招くと警告した。

マタイ 12:28 しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。

マタイ 12:31~32 ですから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけますが、御霊に対する冒瀆は赦されません。また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。

マルコ 3:28~30 まことに、あなたがたに言います。人の子らは、どんな罪も赦していただけます。また、どれほど神を冒瀆することを言っても、赦していただけます。しかし、聖霊を冒瀆する者は、だれも永遠に赦されず、永遠の罪に定められます。」このように言われたのは、彼らが、「イエスは汚れた霊につかれている」と言っていたからである。

### III. 聖霊を冒瀆する罪

- A) この罪は、あの世代のユダヤ人たちが犯した歴史的な特別な罪

マタイ 12:41 ニネベの人々が、さばきのときにこの時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし見なさい。ここにヨナにまさるものがあります。

マタイ 12:42 南の女王が、さばきのときにこの時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし見なさい。ここにソロモンにまさるものがあります。

- B) イエスは、悪霊を題材とするたとえ話をして、あの世代には神の裁きが下り、その最後の状態は初めよりも悪くなると預言した。

マタイ 12:43~44 汚れた霊は人から出て行くと、水のない地をさまよって休み場を探します。でも見つからず、『出て来た自分の家に帰ろう』と言います。帰って見ると、家は空いていて、掃除されてきちんと片付いています。

- 家は空いていて：汚れた霊は出て行ったが、神の霊をまだ受けておらず、その人の内側は空き家状態である
- 掃除されてきちんと片付いている：イスラエルの多くの人々が、バプテスマのヨハネの教えに同意し、ヨルダン川で悔い改めのバプテスマを受け、メシアの到来を待った

マタイ 12:45 そこで出かけて行って、自分よりも悪い、七つのほかの霊を連れて来て、入り込んでそこに住みつきます。そうすると、その人の最後の状態は初めよりも悪くなるのです。この悪い時代にも、そのようなことが起きます。

- 最後の状態・・・紀元70年のエルサレムと神殿の破壊

#### IV. イエスの宣教活動における変化

- A) 奇跡：

メシアとしての権威を示すための奇跡から、弟子たちの訓練のための奇跡へ。これまでは公然と、受ける側の信仰を問わず。今後は、公衆の面前では行わず、受ける側の信仰を確認してから。

公然と行う奇跡は「ヨナのしるし」のみ。

マタイ 12:39~40 悪い、姦淫の時代はしるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし預言者ヨナのしるしは別です。ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。

- B) 教え方：明確な教えから、たとえ話による教えへ。解説は弟子たちにのみ。

- C) 神の国のプログラム：「メシアの王国」は先の世代に延期され、「奥義としての神の国」の時代に入った。 → 次回のハイライト「神の国のたとえ話」